

研究結果報告書

研究結果

現代日本語における外来語はもはや周縁的なものではなく、故に日本語教育においても外来語語彙教育に本格的に取り組むべきであると考えられる。本研究は、その一環として、日本語教科書における外来語を現況調査しようとするものである。

日本語教育現場では、未だにカタカナと外来語はさほど重要視されていないのが実状であり、特に、中国語を母語とする台湾人日本語学習者にとっては、外来語語彙習得が、初級・中級を問わず語彙学習の大きな障害になっており、これに関する研究が必要とされている。

本研究は、日本語教科書における外来語の現況調査であるが、様々な言語を母語とする学習者を対象にした日本の教科書を軸に、台湾人向けのものと同国人向けのものとの比較し、それぞれの現状や特徴などを分析する方法をとった。

今回の現況調査で判ったことは、次のような点である。まず、文字としてのカタカナ学習自体が、未だ重視されていないことが見て取れる。次に、三ヶ国の教科書に共通して見られる外来語が、一部を除いてはそれほど多くなく、基本語としての外来語を取り入れようとする認識が未だ乏しいように思われるので、学習用基本外来語彙の選定などが待望される。一方、まだまだ不十分ではあるが、僅かながら新しいカタカナ語を紹介しようとする試みも見受けられる。また、日本と台湾の教科書とは異なる傾向として、韓国の教科書には韓国語からのカタカナ表記語を使用する例がいくつか見られる。この点については、カタカナ語に親しませる学習法の一つとして、台湾の教科書に取り入れる価値があるようにも思われた。最後に、いくつかの複合語、混種語が見られなくはないが、外来語の語彙学習においては、語構成論的な観点からの学習語彙選定の配慮がほとんど見受けられないことも注目すべき点である。

今後は、上述の研究結果を、より詳細に調査/分析することによって、学習用基本外来語の選定、外来語語彙の導入の提案という次の段階に進む予定である。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「日本語教科書におけるカタカナ語－台湾・韓国の大学教材の場合－」・林慧君・第1回国際遠隔教育学会・2013.04.05・中国

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「日本語教科書におけるカタカナ語－台湾・韓国の大学教材の場合－」・林慧君・『台大日本語文研究』(投稿予定)・2014.6.30

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)